

企業名

株式会社試作工房電

代表者名

小林 大介

設立年月日

平成25年4月

個人事業としては
平成15年5月より

資本金

550万円

従業員数

1名

所在地

〒243-0203

厚木市下荻野994-4

TEL. 046-281-7652

FAX. 046-281-7652

<http://shisaku-den.seesaa.net/>shisaku-den@aqua.ocn.ne.jp

事業テーマ

セラミックス成形型製造
のための5軸切削加工技術開発

小林 大介 社長

変化する試作 質・量ともに

補助金活用で法人化初年度から大型投資に成功

ものづくり補助金を知ったきっかけは以前設備を購入し、付き合いの深かった工作機メーカーからの紹介でした。一次公募ではどのように申請書を書けばよいか分からず採択されなかったため、二次公募の際には商工会が主催する申請書の書き方講習を受講して、採択を受けることができました。また、認定支援機関の金融機関には、申請書を見てもらって第三者的な意見をもらったり、採択後は融資に関する相談に乗ってもらうなどの支援を受けました。



▲補助金購入設備



ものづくり補助金を申請、採択を受けたのは個人事業から法人化した当年であり、売上からみて借入できる額も限られていたため、補助金なしには設備投資を

行うことはできませんでした。5軸加工機を導入することによって見込んでいた切削加工の業務は、取引先の都合により受注できなくなったものの、これまで3軸加工機で行っていた作業の一部を5軸加工機での製造に変更することで、加工精度の高度化による歩留り向上や、切削に用いる刃物の寿命の長期化、段取り作業の軽減といった効果が得られており、生産コストの削減につなげることができました。また、5軸加工機を保有しているということで、信用度が上がり、新しい顧客からの仕事の引き合いが得られることもあります。

業務充実に向 業 け 今 後 も 補 助金を活用したい

現在、取引業界の中心は家電業界であり、小型の部品の試作が中心となっていますが、自動車業界での受注増加に向けた取り組みを行っています。家電業界と自動車業界は開発サイクルが異なり（家電業界は短く、自動車業界は長い）、双方をバランスよく受注することが設備の稼働率を平準化し、さらには経営の安定化につながると考えているからです。ただし、今後さらに取引を拡大するためには、現有の設備よりもさらに大型の設備導入を行ったり、すでに自動車の事業を行っている企業との連携が必要となってきています。また、3次元測定器など加工用以外の設備の導入で、業務の充実に図りたいと考えています。こうした設備投資にも補助金を活用できないか、検討

業界で、 成長を目指す！

社長含めて3人の小規模企業ながら、
社長のネットワーク拡大によって大小の仕事を獲得し、
積極的な設備投資を行って成長する試作専門企業。



しています。

ネットワーク拡大で、面白いものづくりを

試作の依頼は、かつては紙の図面で注文が来ていました。図面の正確性がかならずしも高くない場合もあり、いかに正しい形状に仕上げるか、ノウハウの活かしどころが多く面白い仕事でした。しかし、近年は3Dデータでの依頼が主流となり、ノウハウを生かす余地は寸法公差や樹脂特性による加工方法の検討などに限られてきています。こうした現状に対し、当社では図面のないところからものづくりをする仕事も積極的に増やしています。そうした仕事の中には、2015年ミラノ万博の日本館に展示されている、書家紫舟氏の文字をガラスで再現したオブジェを模した予備用のアクリル製オブ

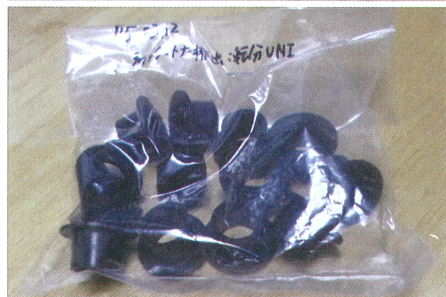
ジェの製作や、大手携帯業者の次世代携帯の構想プロジェクトへの参画といったものもあります。

また、こうした3D図面のないような仕事の多くは、小規模のデザイン会社・設計会社との仕事であり、周辺企業や異業種の経営者との交流、ネットワークの拡大に積極的に取り組むことで生まれています。当社は厚木市商工会議所の会員ですが、当社のような規模で会員になっ

企業概要

当社は、樹脂全般・軽金属の切削加工によって試作部品を製作する企業である。代表の小林氏は、県内の1次試作メーカーに勤務しており、入社当初から将来的な独立を意識して準備を進め、11年程勤務した後、2003年に実家のある綾瀬市で独立した。2013年には現在の厚木市に移転し、法人化。1次試作メーカーからの家電業界、自動車業界の試作が受注が中心であるが、精密医療部品の微細加工から1mほどの自動車部品まで幅広いサイズの加工に対応。社名に用いている「電」は、要求納期がきわめて短い試作業界において、素早い納品を目指す決意の証を示したものであり、自社設備と多方面へのネットワークを用いて顧客の要望に応える。

ている企業はほとんどありません。県央ものづくり交流会や産業振興センター実施のビジネスマッチング、神奈川異業種連絡協議会などにも積極的に参加しています。小さいデザイン会社・設計会社でも、メーカーと直取引している場合も多く、そこから大きな仕事につながることもあるほか、すぐに仕事につながるかわからなくても、外部との交流から新しい仕事のアイデアを思いつくこともあるので、人脈作りはこれからも続けたいと思っています。



▲試作部品